

①

(平成 28・2・15)

第68期集合修習A班カリキュラムの概要

司 法 研 修 所

は し が き

平成26年度（第68期）司法修習生のうち、A班（実務修習地が東京、立川、横浜、さいたま、千葉、大阪、京都、神戸、奈良、大津、和歌山である者）を対象とする集合修習のカリキュラムは、14クラス編成で平成27年8月17日に開始され、同年9月30日に終了した（その後、各実務修習地等において選択型実務修習が実施された。）。

第68期A班の集合修習のカリキュラムの概要は、この資料及び別添「平成26年度（第68期）司法修習生A班集合修習日程予定表」のとおりである。

集合修習のカリキュラム策定に当たっては、法科大学院において修得した学識及び実務の基礎的素養等並びに分野別実務修習の成果を踏まえて「幅広い法曹の活動に共通して必要とされる法的問題の解決のための基本的かつ汎用的な技法と思考方法」（司法修習生指導要綱（甲）第1章第1）を修得させる観点から、実務修習を補完し、司法修習生全員に、実務の標準的な知識、技法の教育を受ける機会を与えるとともに、体系的に汎用性のある実務知識や技法を修得させることを旨としている（要綱（甲）第3章第1）。

このような趣旨を踏まえ、第68期A班においても、修習記録を用いて司法修習生に文書を起案させ、討論、講評を行うことを指導の中心としつつ（同第4の1），従来の司法修習で要求していたような法律書面の全体を形式面も含めて起案させることにはこだわらず、より実質的に、書面の内容の根底をなす思考過程を明らかにさせることを重視する方法で出題がされているほか、ロールプレイングも含めた民事・刑事の様々な講義、演習、問題研究や法曹倫理、国際人権等に関する演習、講演なども実施された。

司法修習生指導担当者各位におかれでは、本資料を今後の実務修習の参考としていただきたい。

第1 民事関係科目

I 民事裁判

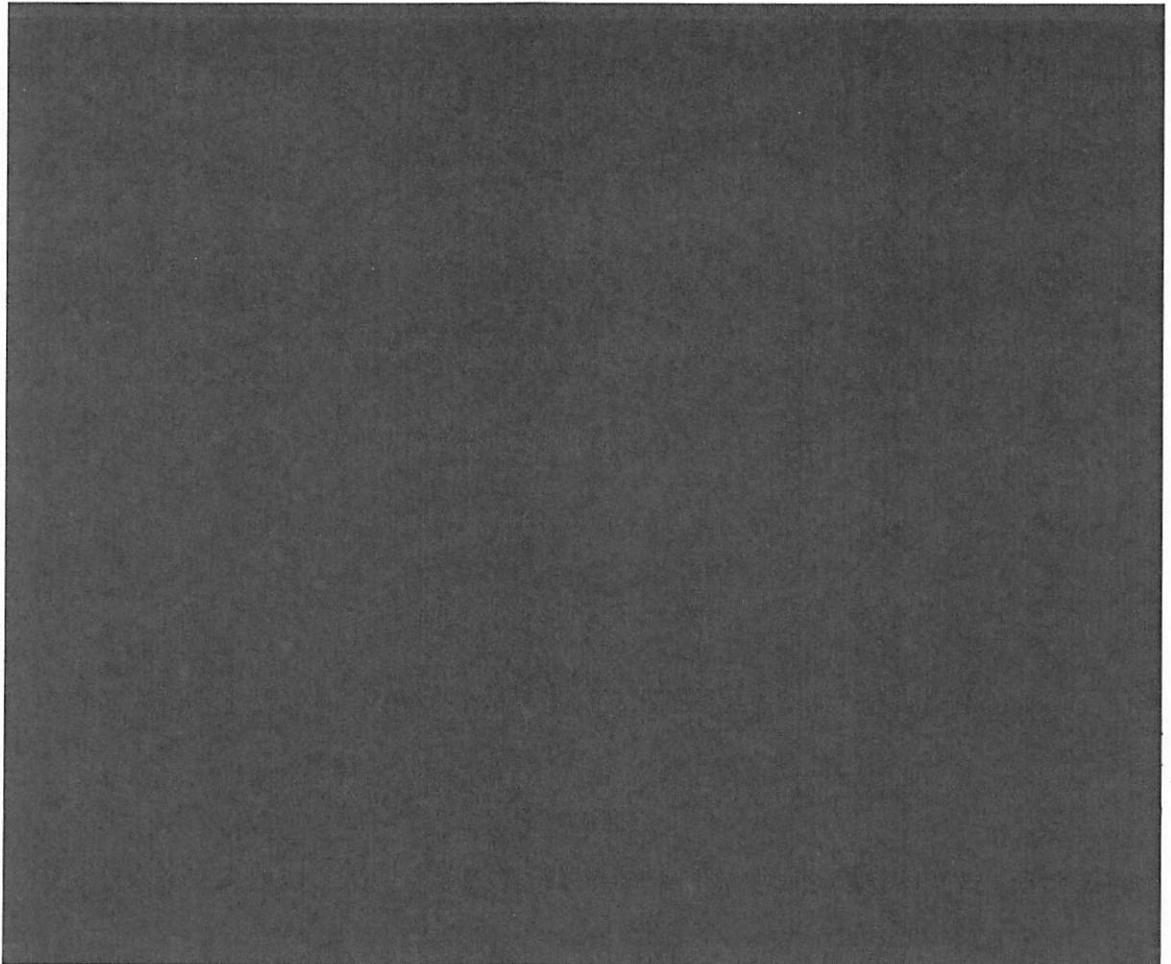
1 講義

集合修習の冒頭に、集合修習に向けてのガイダンスをし、集合修習における民事裁判科目及び民事共通科目の修習内容を説明してその意義を理解させ、今後の学修方法に関する指導を行うことで集合修習への動機付けを行った。



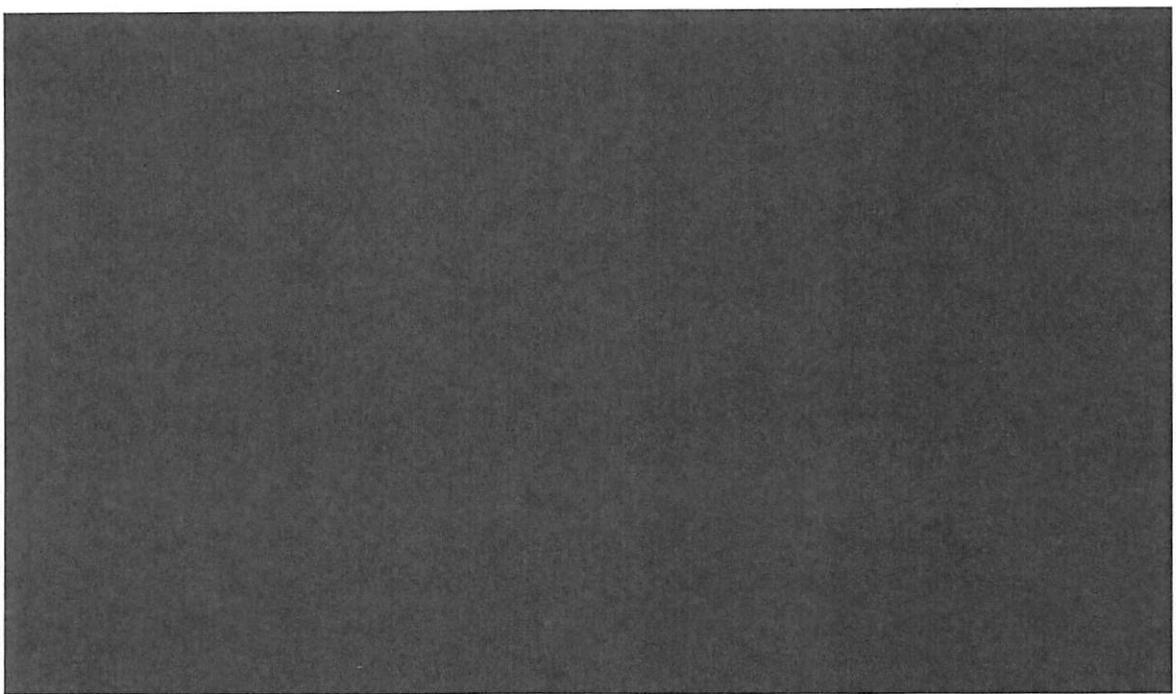
2 起案

(1) 総説

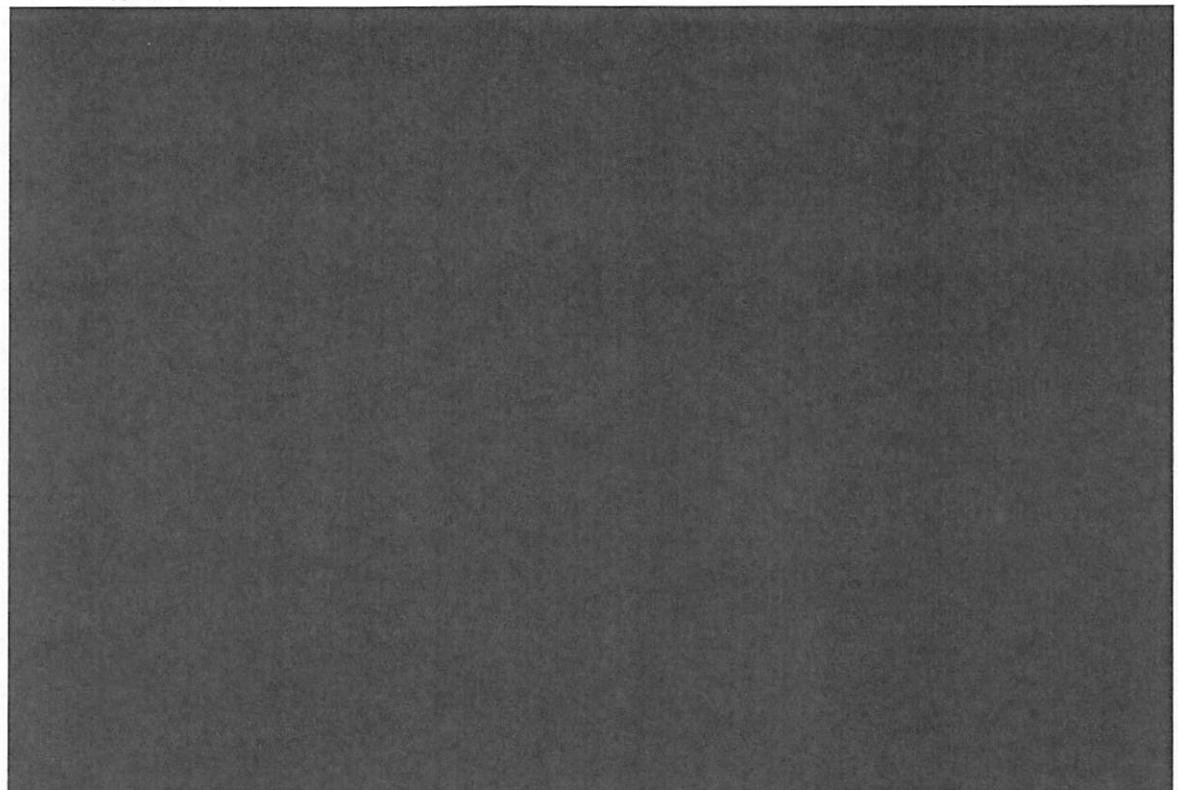


(2) 起案 1

ア 事案の概要

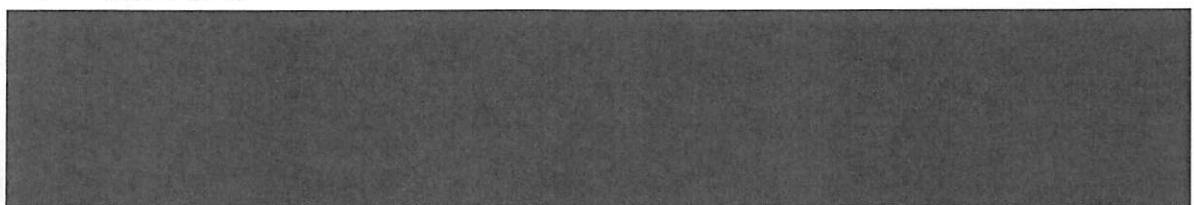


イ 起案事項等



(3) 起案 2

ア 事案の概要

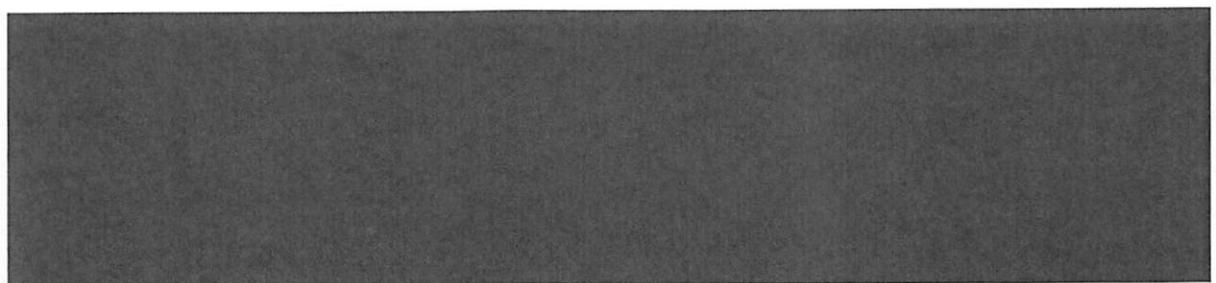


イ 起案事項等

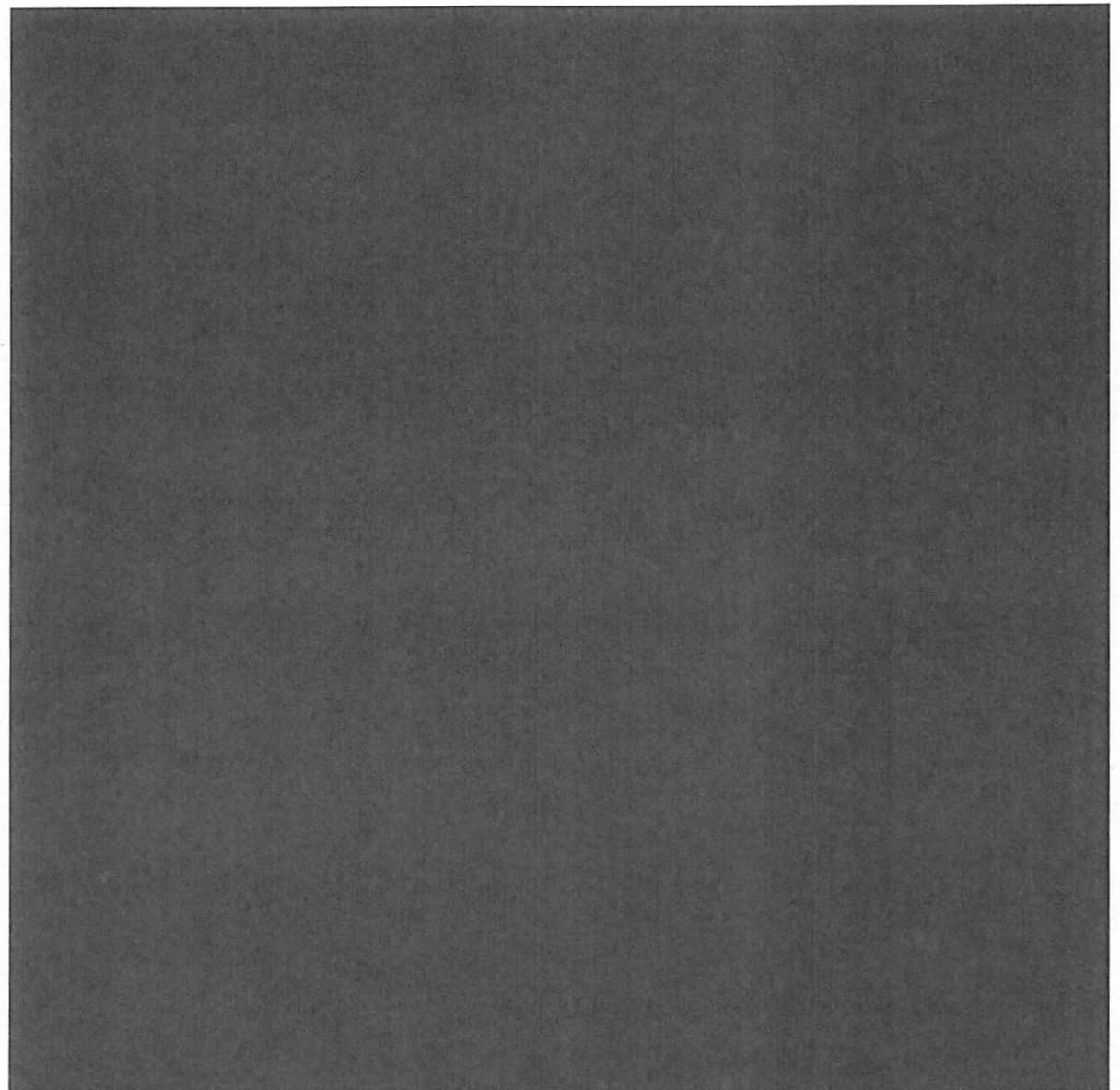
3 演習（争点整理）

(1) 総説

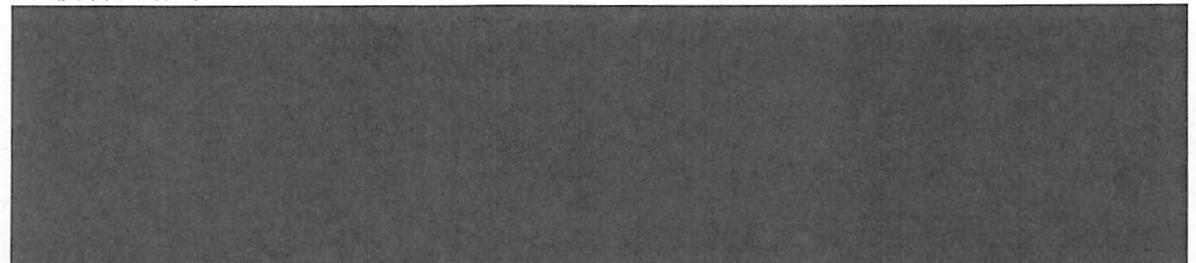
新第65期集合修習から新しく設けられたカリキュラムである。

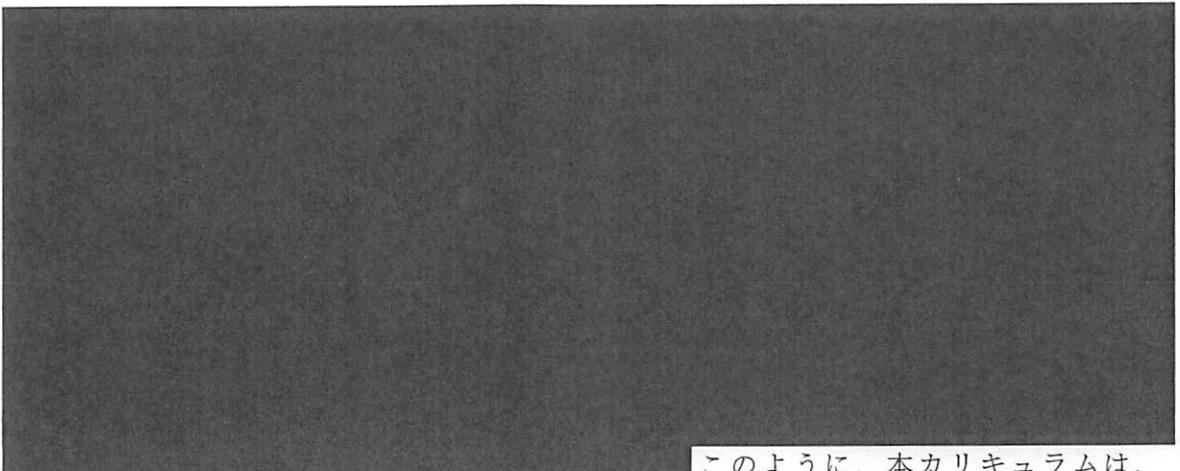


(2) 事案の概要



(3) 演習内容等





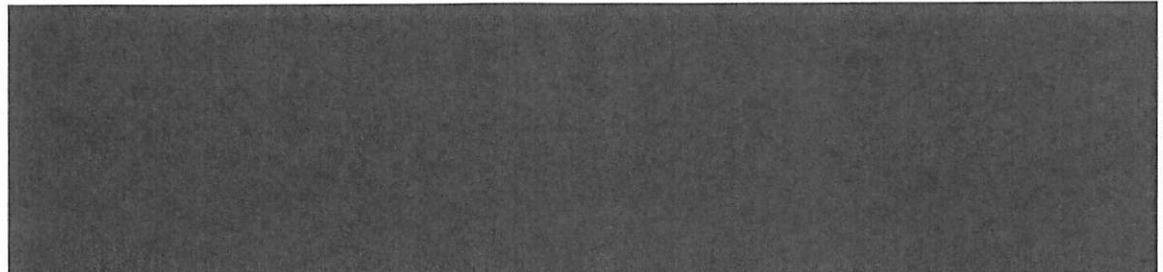
このように、本カリキュラムは、

実務家としての基礎的かつ実践的な思考力、状況に応じた問題解決能力のかん養を目的とするものであり、法曹としての実際の活動との架橋を意識したものである。

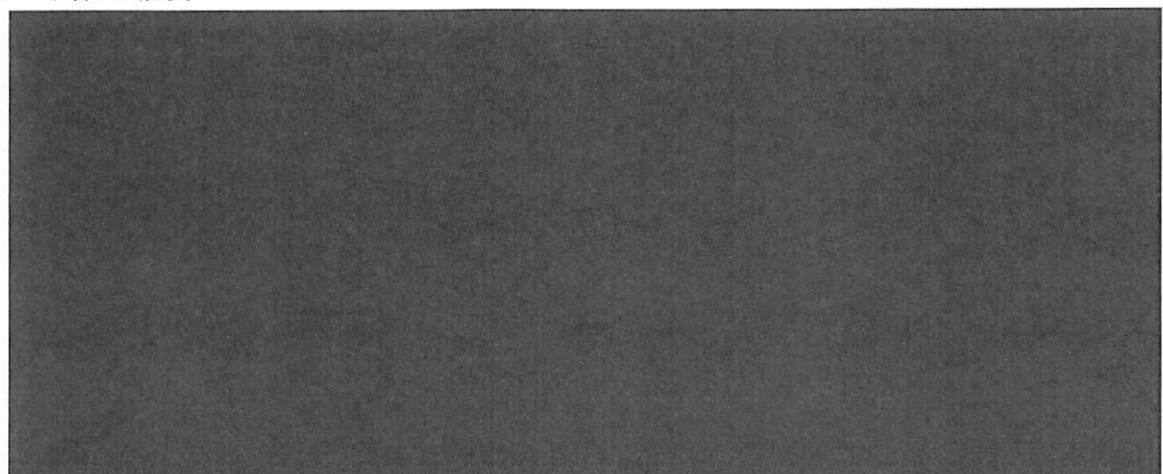
II 民事弁護

1 問題研究

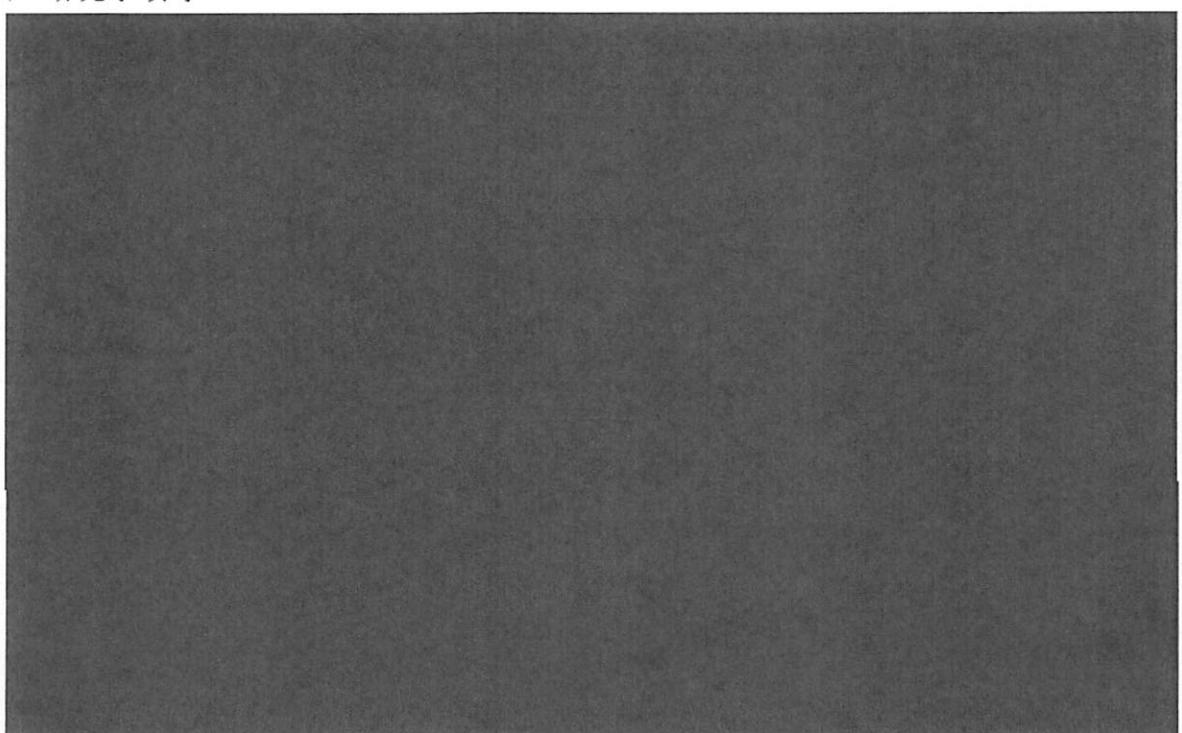
(1) 実施内容



(2) 事案の概要



(3) 研究事項等



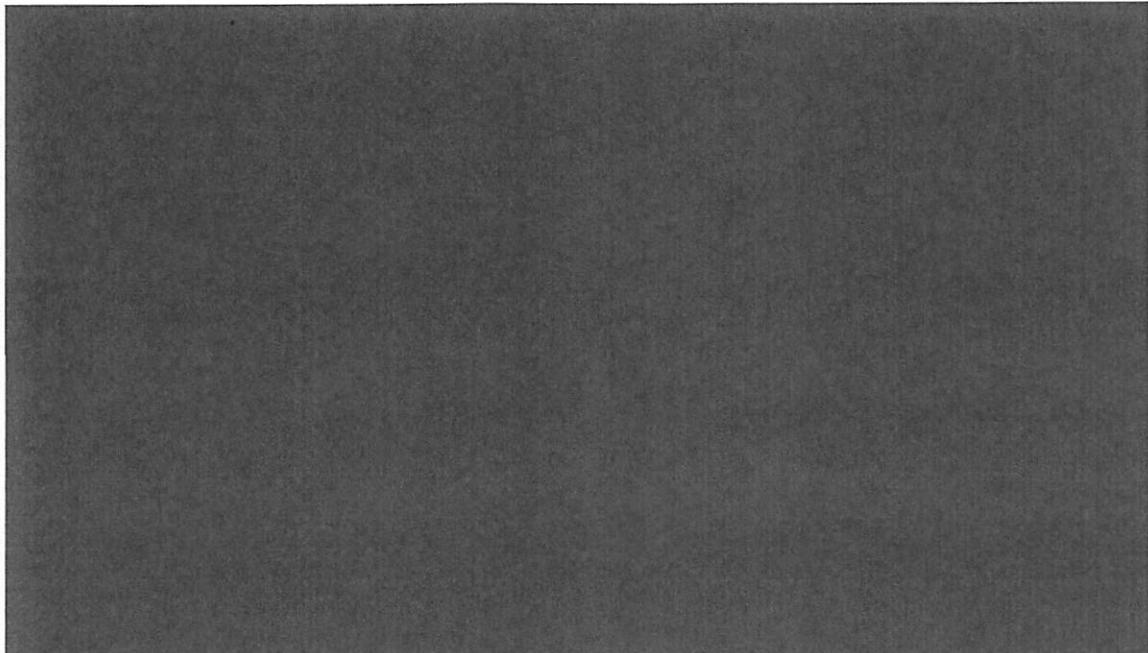
2 起案

(1) 起案 1

ア 事案の概要

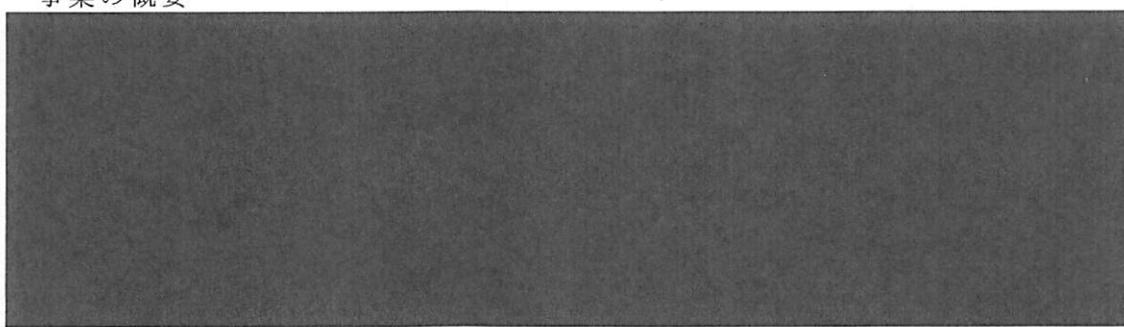


イ 起案事項等

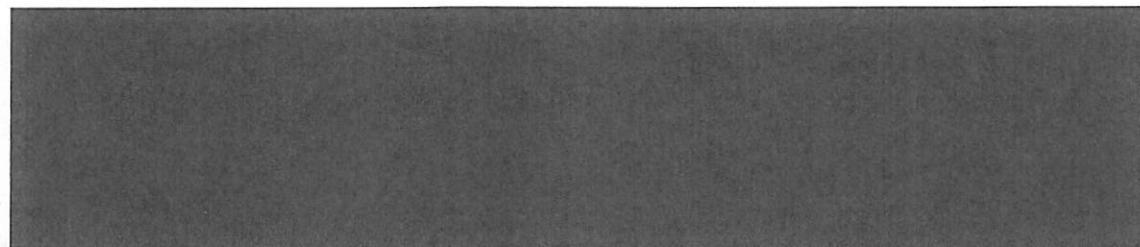


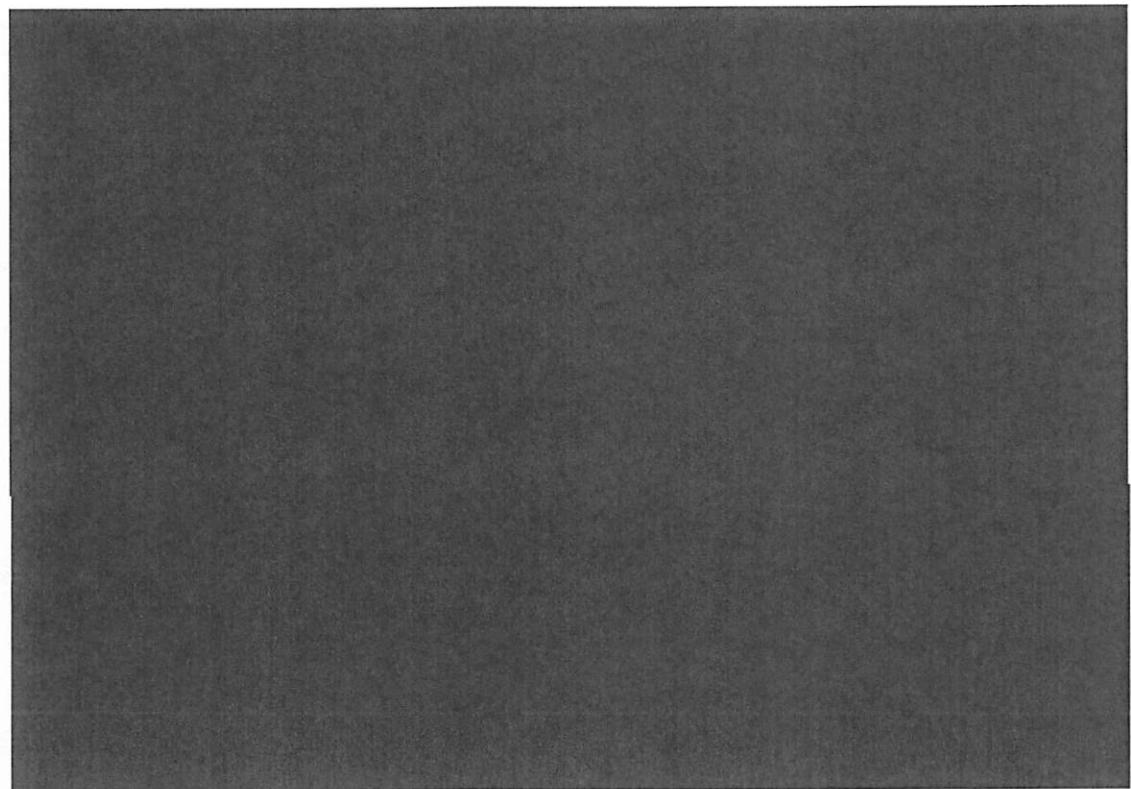
(2) 起案 2

ア 事案の概要



イ 起案事項等





3 演習

(1) 演習 1 (法律相談)

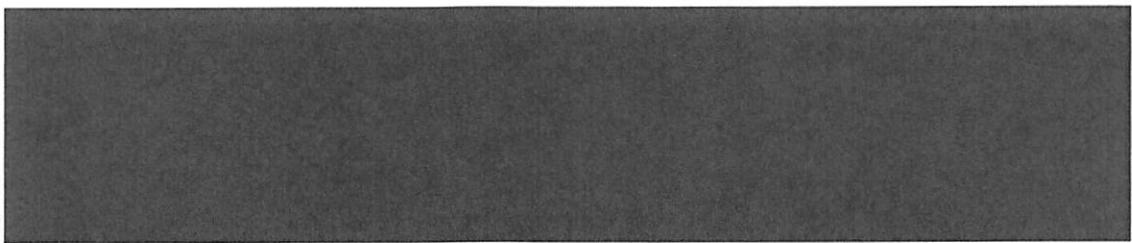
ア 実施の概要

イ 演習の目的

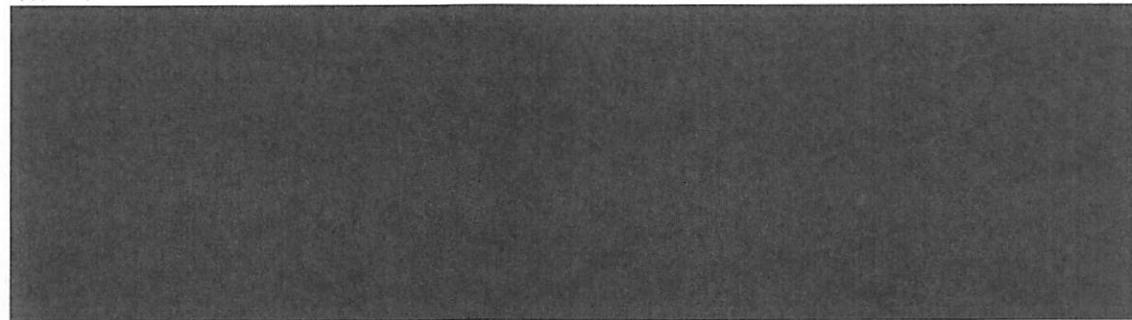
法律相談は、受任に先立つ行為として、受任の可否、事案解決の見込み、処理方針などを判断し、かつ、依頼者に対して、事案処理方針の説明、報酬等の説明をした上で、弁護士委任契約の締結などを行う重要なステージである。また、依頼者から適切に事案の本質を聞き出し、かつ、依頼者との信頼関係を醸成する重要な場でもある。

ウ 事案の概要

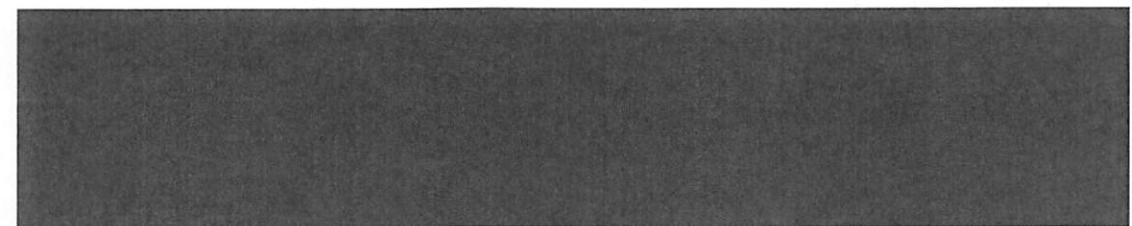
(ア) ケース 1



(イ) ケース 2

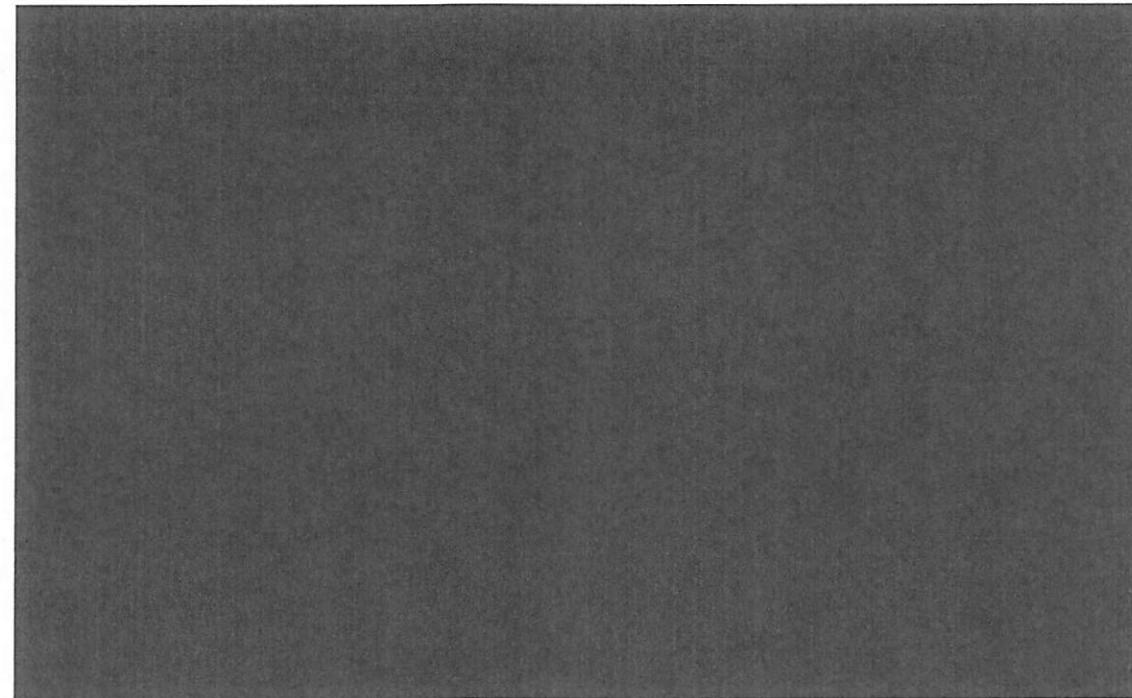


エ 実施内容



(2) 演習 2 (通知書・和解条項)

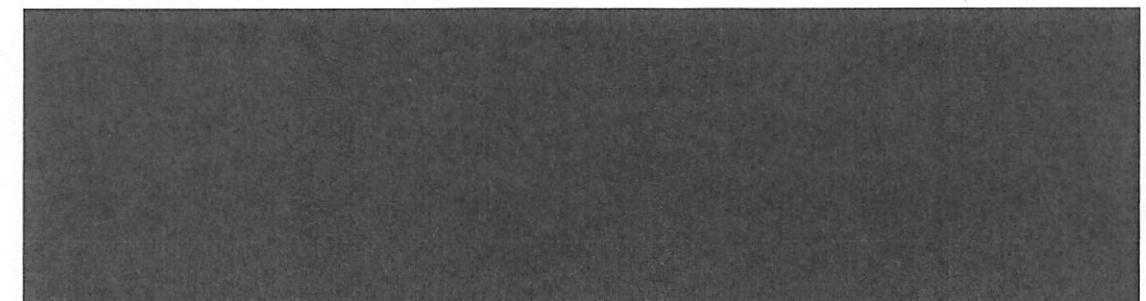
ア 実施の概要



イ 演習の目的

初対面の相談者は、必ずしも弁護士に対し自己に不利益な事実や資料を進んで開示するとは限らない。また、紛争の実像は、代理人から見て、初回の法律相談

での聴き取りだけでその全体像が明らかになるとは限らない。



ウ 実施内容

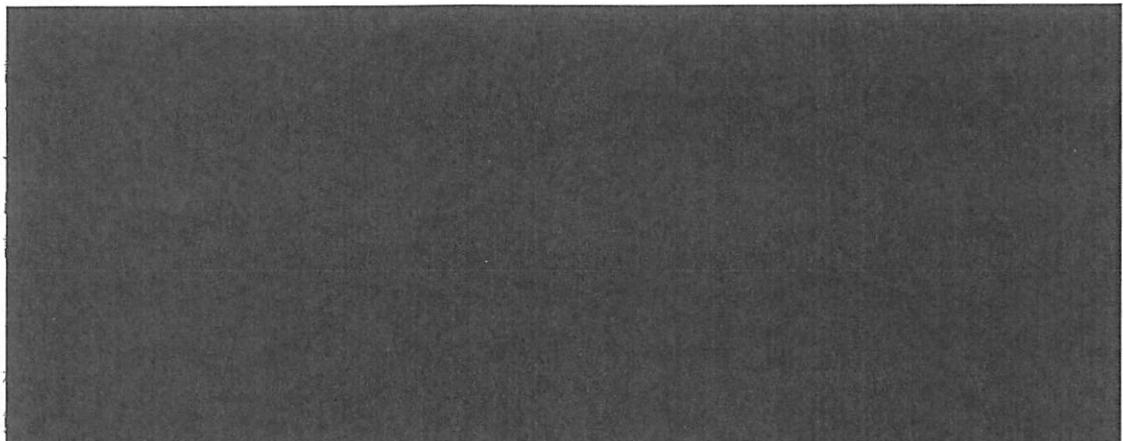


III 民事共通

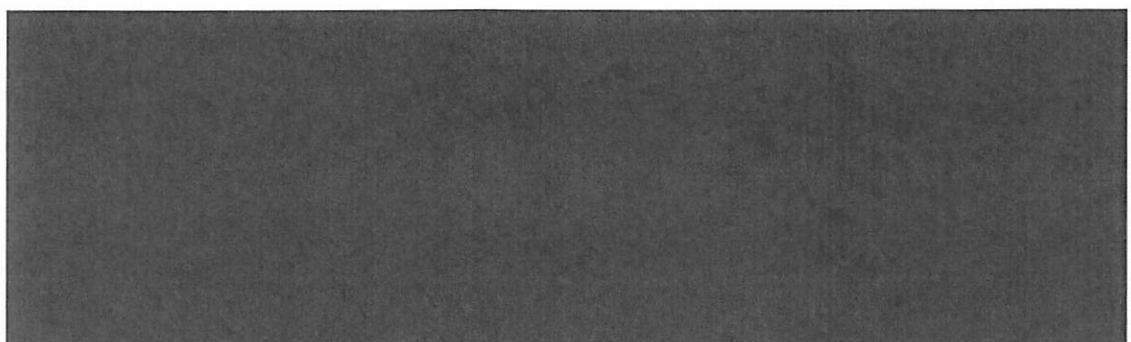
1 民事共通演習 1 から 4 まで

(1) 総説

ア 趣旨

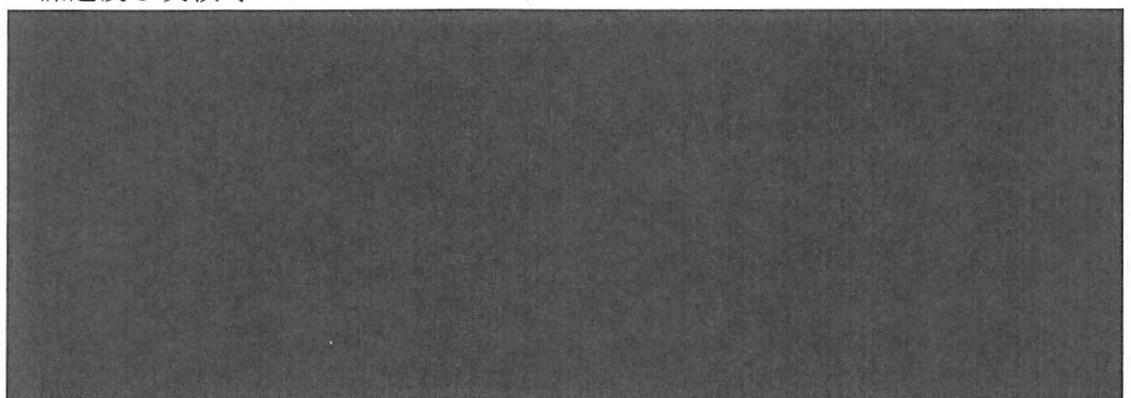


イ 事案の概要



(2) 民事共通演習 1 (口頭弁論)

ア 課題及び実演等

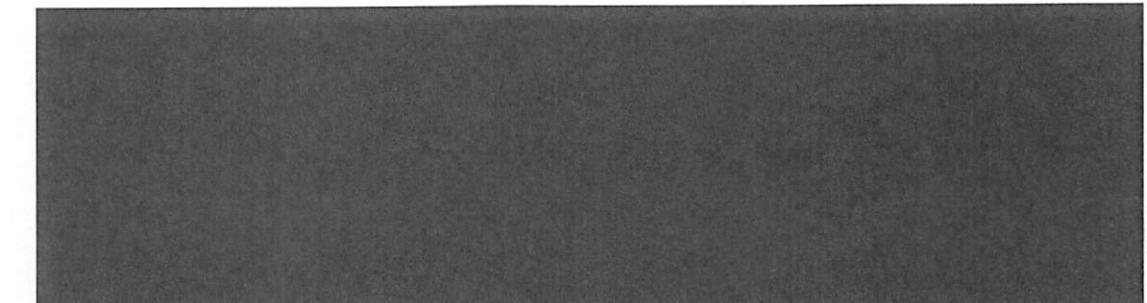


イ 講評



(3) 民事共通演習 2 (弁論準備手続期日)

ア 課題及び実演等

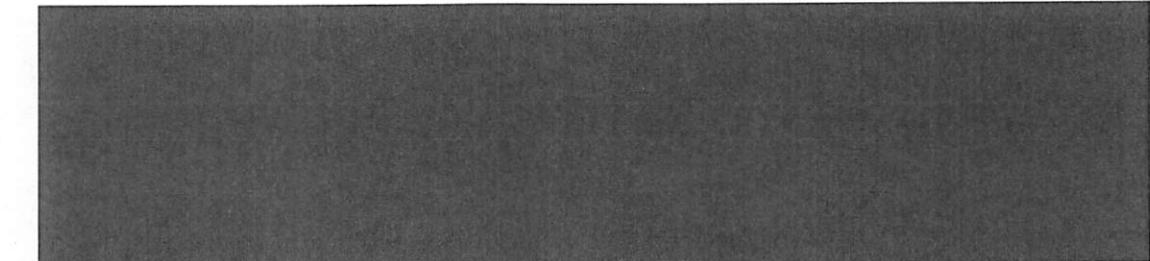


イ 講評等



(4) 民事共通演習 3 (交互尋問)

ア 趣旨



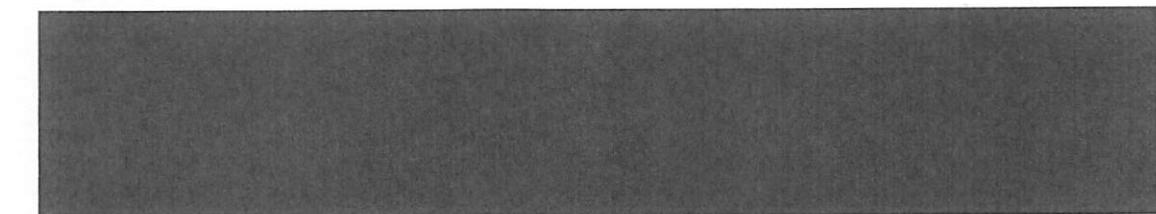
イ 事前準備等



ウ 交互尋問等



エ 講評等



(ア) 外部講師（裁判所職員総合研修所教官）による講評



(イ) 教官による講評



(ウ) 事実認定討論



(5) 民事共通演習 4 (判決)

ア 判決

イ 講評

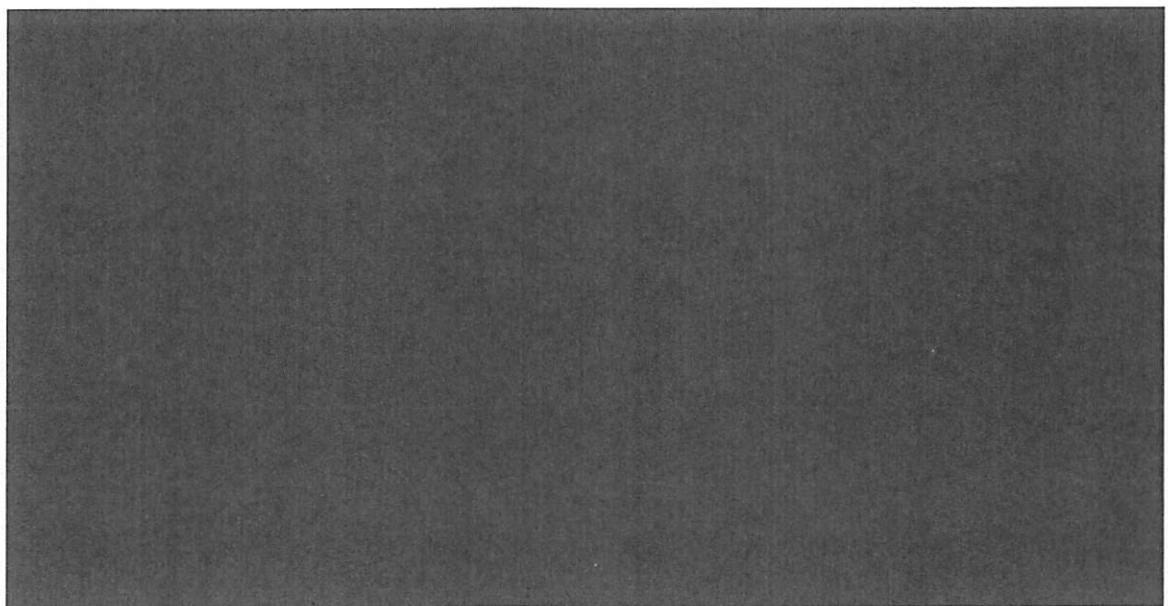
2 民事共通問題研究 (和解)

第2 刑事関係科目

I 刑事裁判

1 起案

(1) 総説

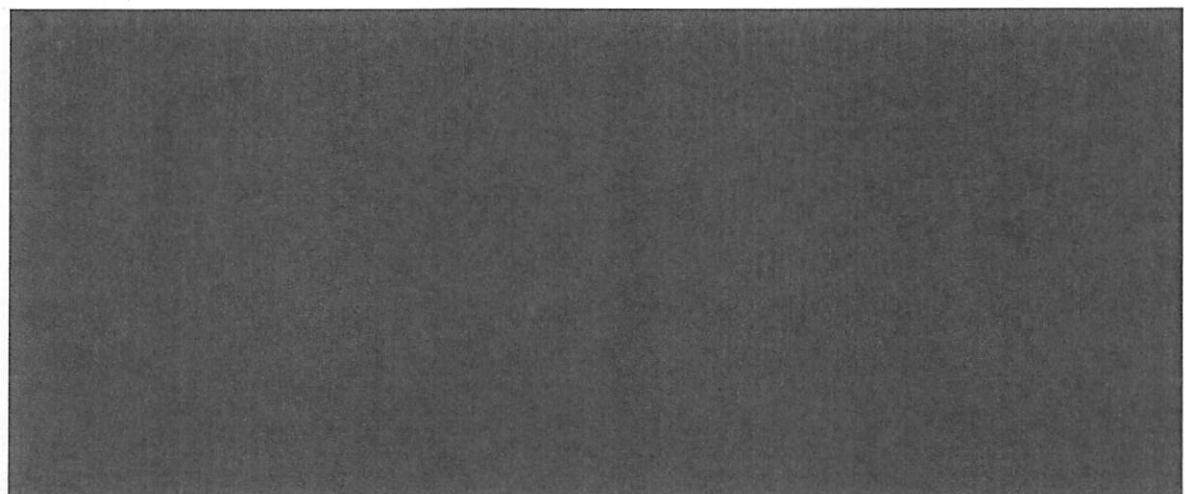


なお、いずれの設問についても、書式、形式等を要求するものではないし、単なる知識を問うものでもなく、新司法修習における指導理念に対応した、法曹としての活動に共通して必要となる汎用性のある基礎的な能力を修得させることに重点を置いて出題している。

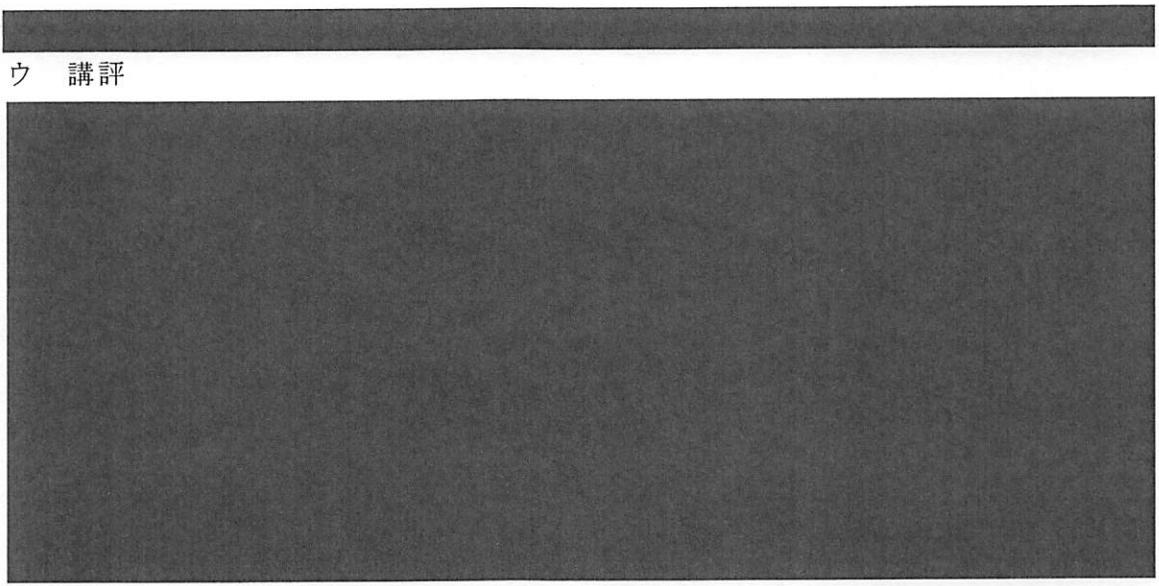
(2) 起案1

ア 事案の概要

イ 起案事項



ウ 講評

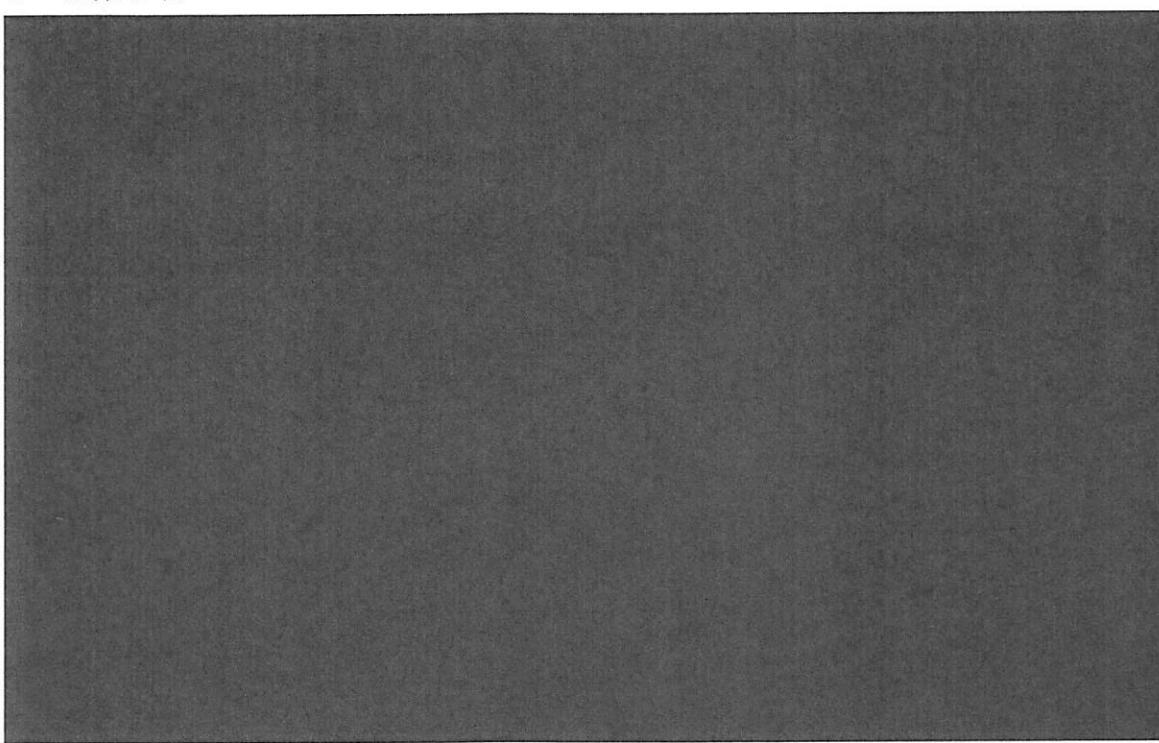


(3) 起案 2

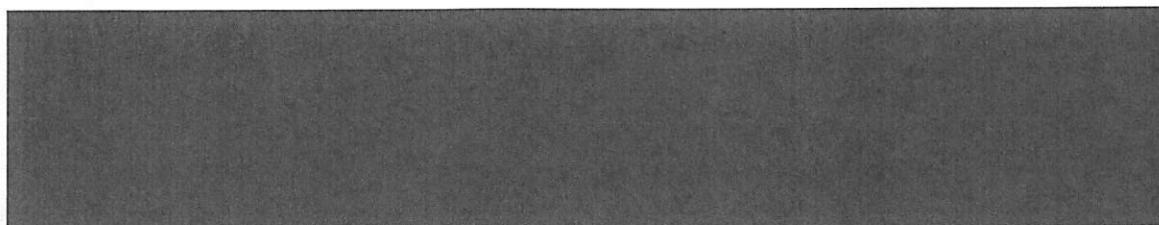
ア 事案の概要

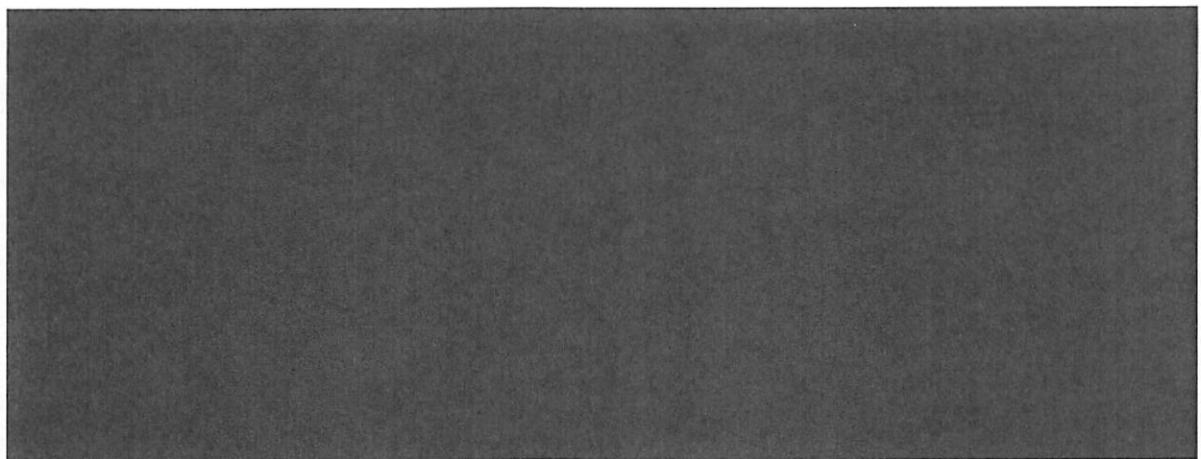


イ 起案事項



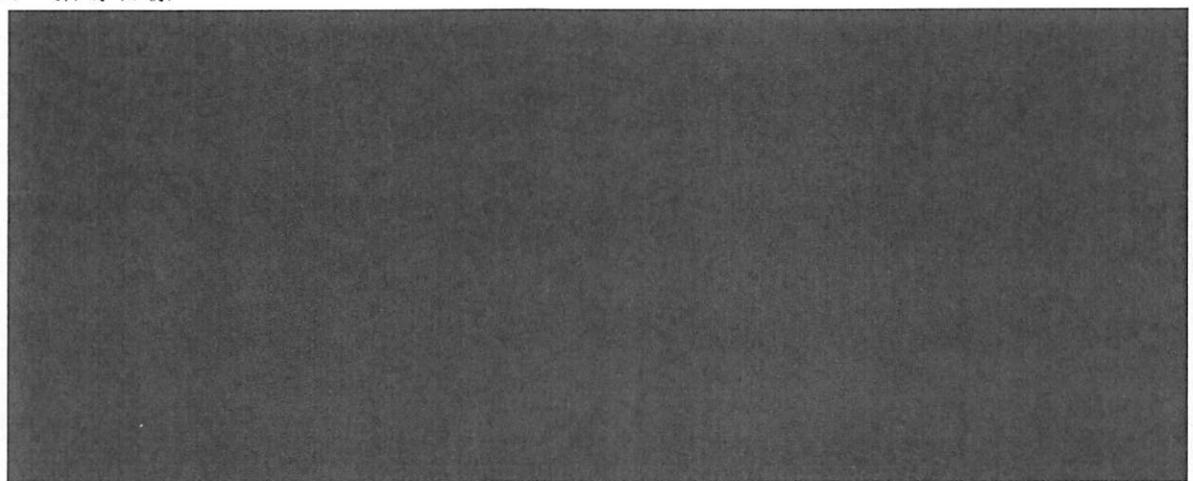
ウ 講評



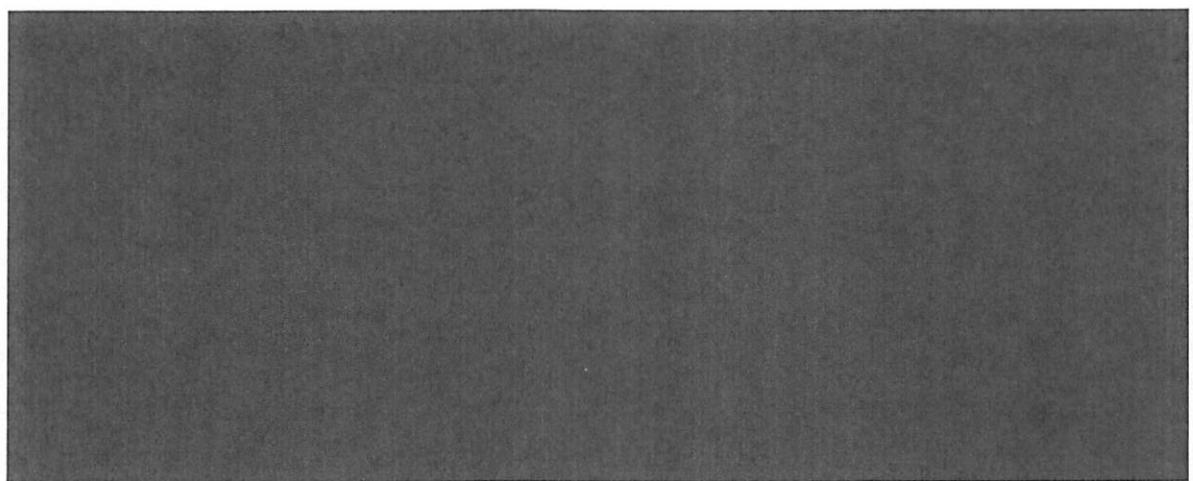


2 問題研究

(1) 指導目標



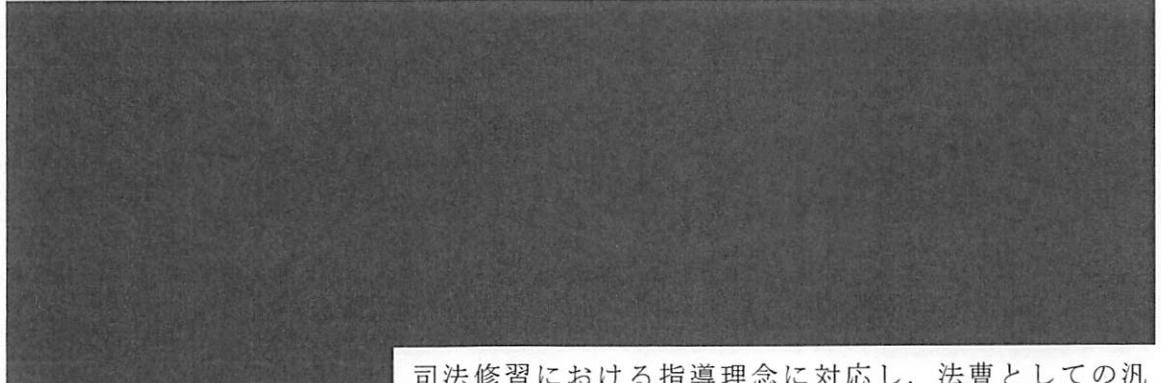
(2) 實施內容



II 檢 察

1 起案

(1) 檢察起案の概要



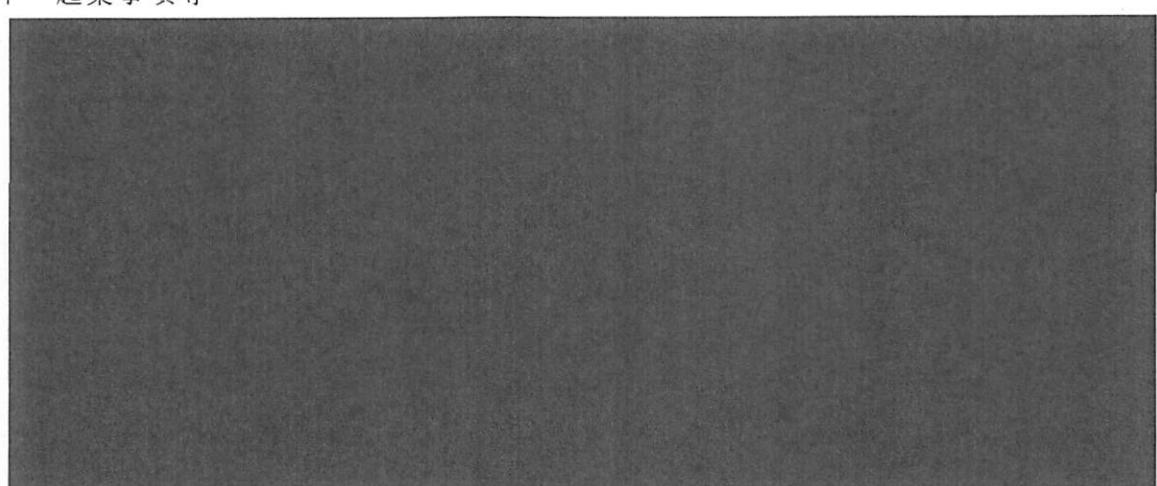
司法修習における指導理念に対応し、法曹としての汎用性のある基礎的な能力を習得させることに重点を置いた出題であり、刑事手続に関する問題についても、単に法的知識を問うだけではなく、修習記録中に現れた具体的な事実関係を正確に把握しなければ正解に達し得ない問題を出題するように配慮した。

(2) 起案 1

ア 事案の概要



イ 起案事項等



ウ 講評



(3) 起案 2

ア 事案の概要

イ 起案事項等

ウ 講評

2 問題研究（被害者保護）
指導目標及び実施内容等

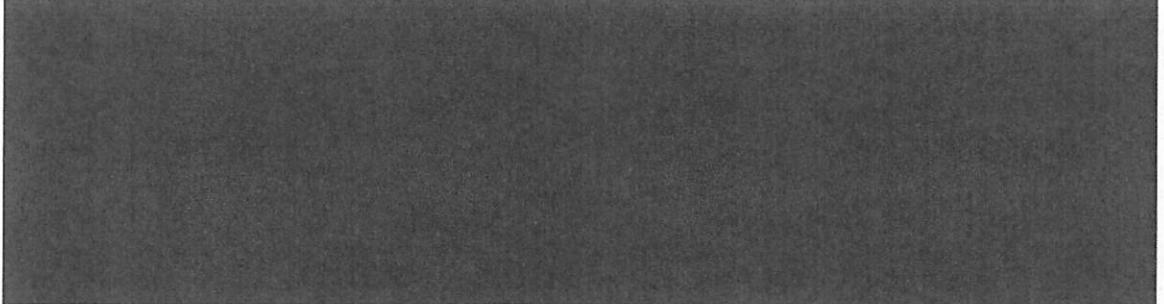


III 刑事弁護

1 起案

(1) 総説

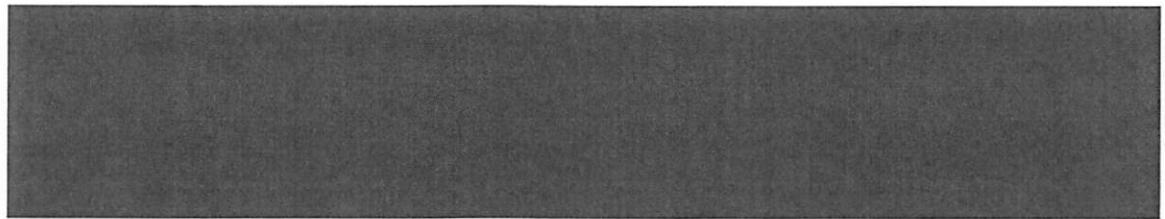
2回の起案を実施し、講評を行った。



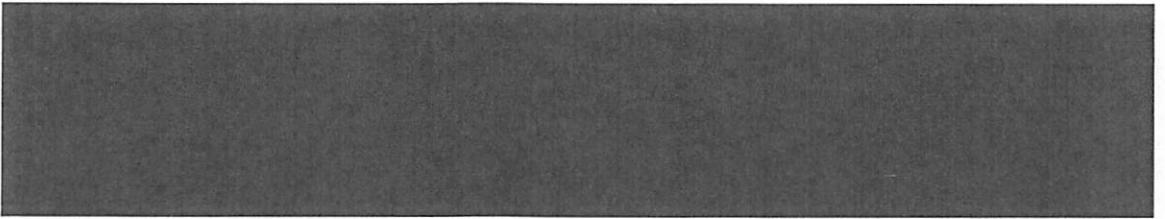
刑事弁護科目における起案及び講評は、弁護人の立場から、弁護方針に基づいて、どのように証拠を評価し、説得のための論証を行うかを考えさせるとともに、訴訟手続や証拠法に関する実務の理解を一層深めさせることを主たる目的としたものである。

(2) 起案 1

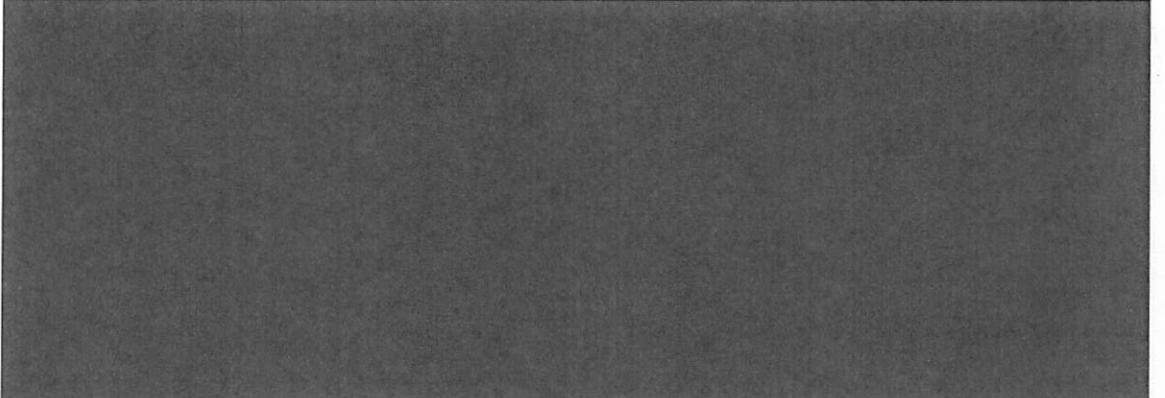
ア 事案の概要

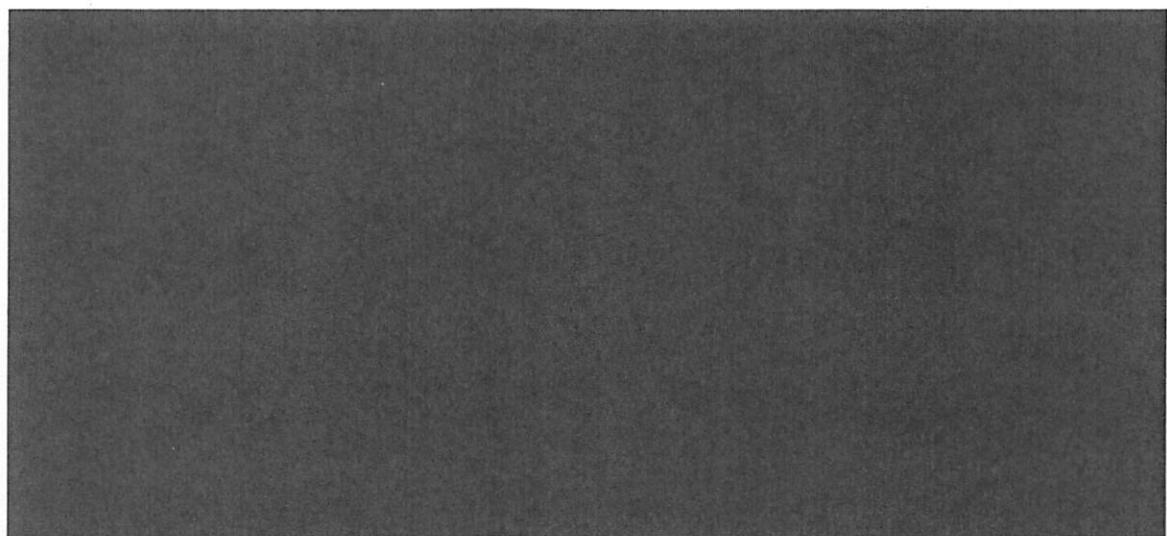


イ 起案事項



ウ 講評





(3) 起案 2

ア 事案の概要



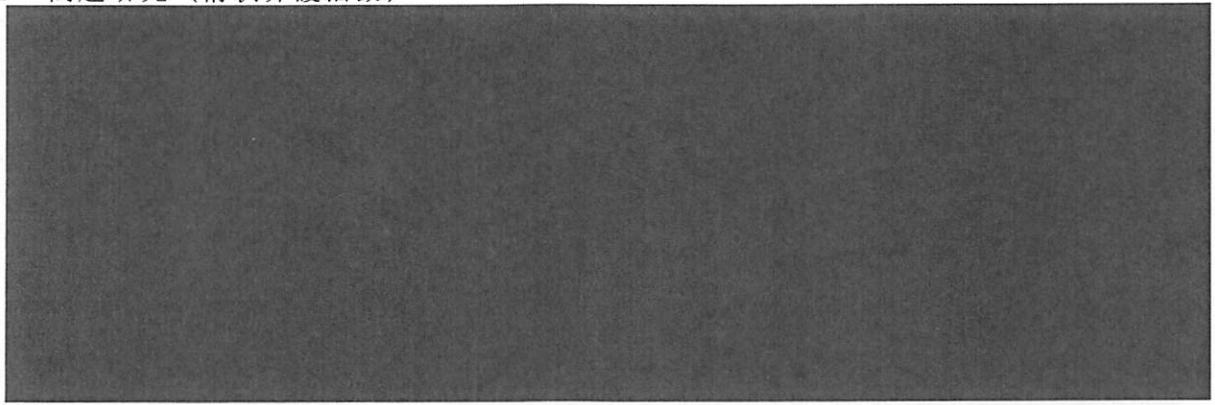
イ 起案事項



ウ 講評



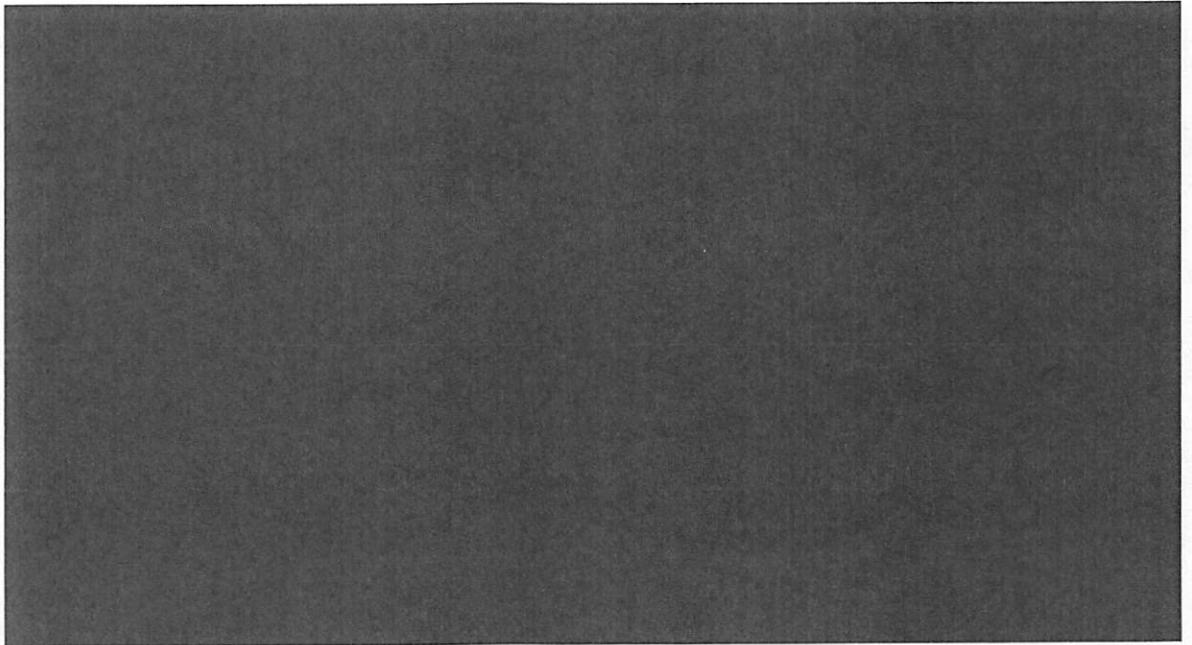
2 問題研究（情状弁護活動）



IV 刑事共通

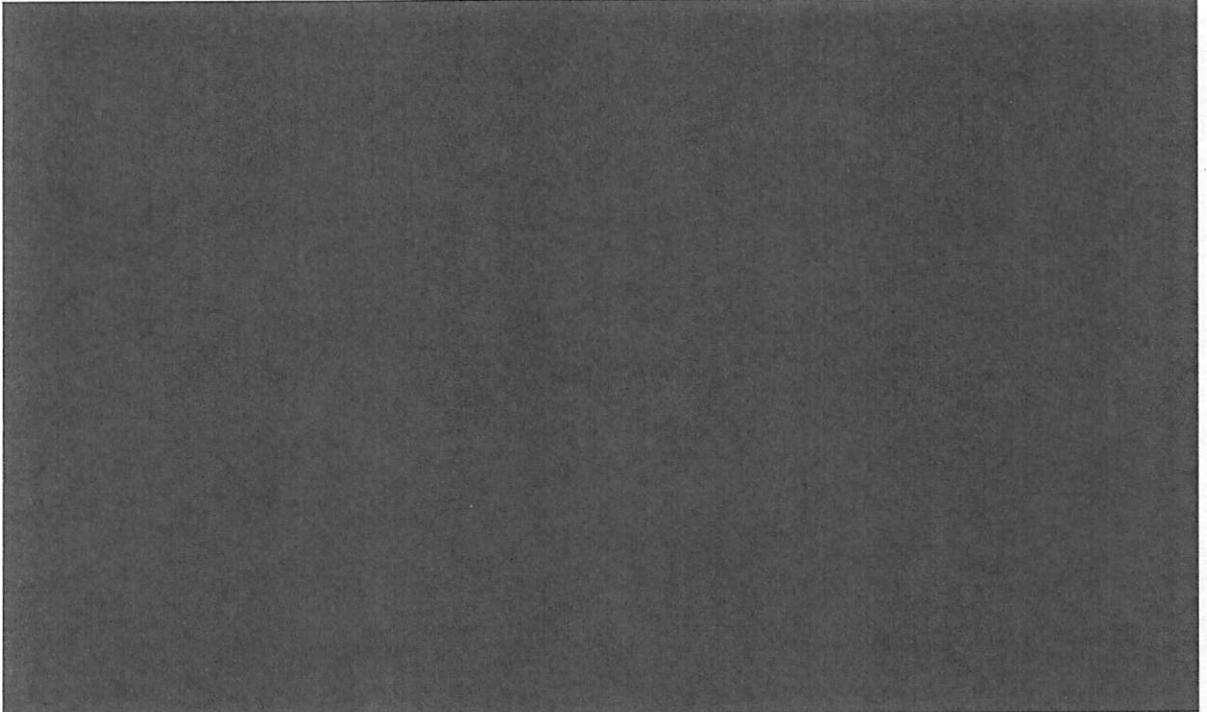
1 刑事共通演習

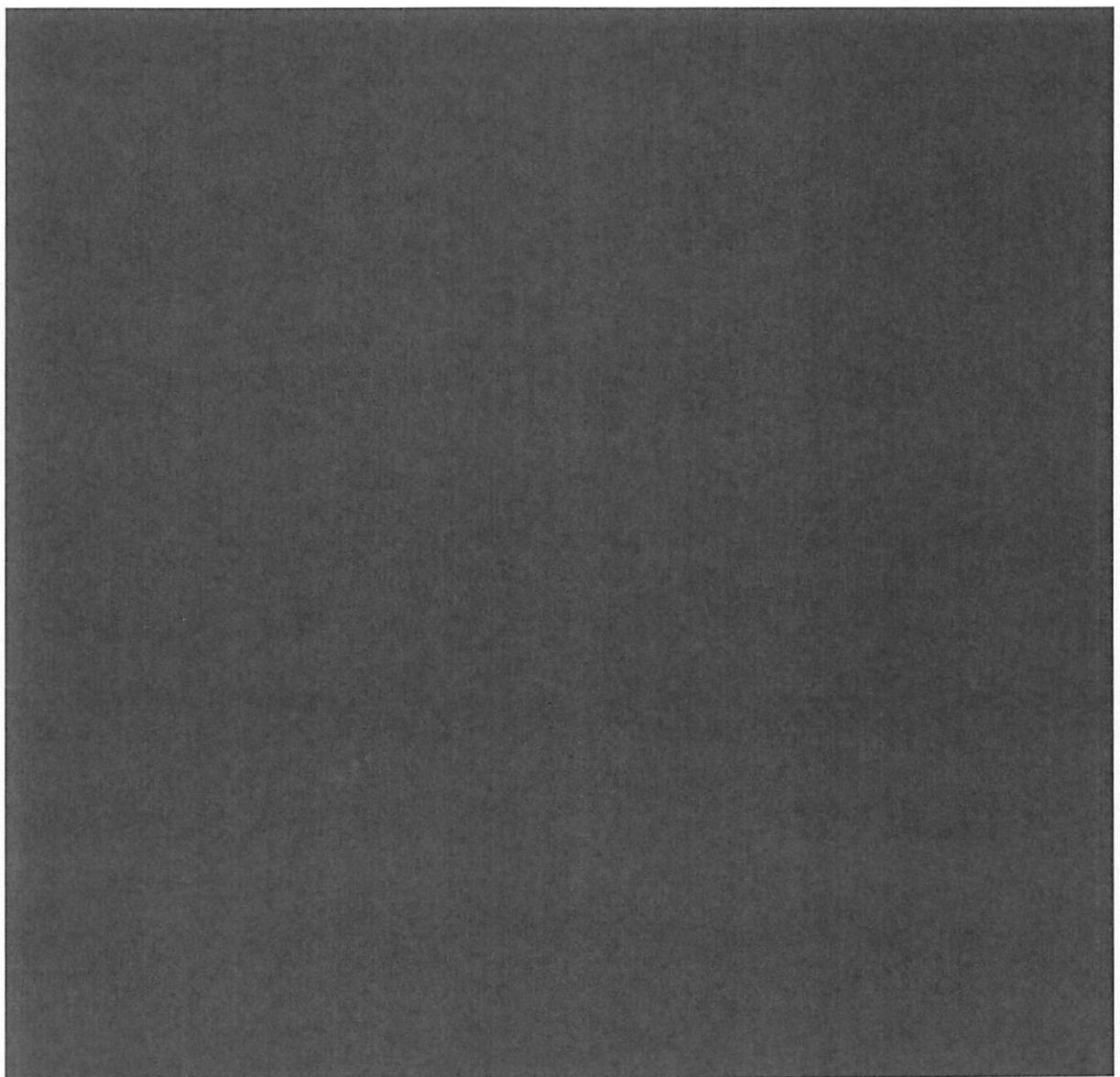
(1) 指導目標



これらの演習を通じ、的確な争点整理を行う上での必要な視点を提供し、これにより、法曹としての活動に共通して必要とされる汎用性のある基礎的な能力を修得させるよう努めた。

(2) 実施内容



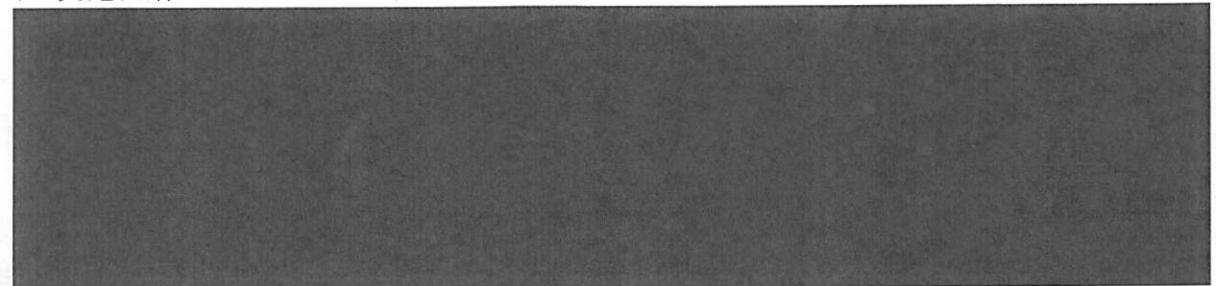


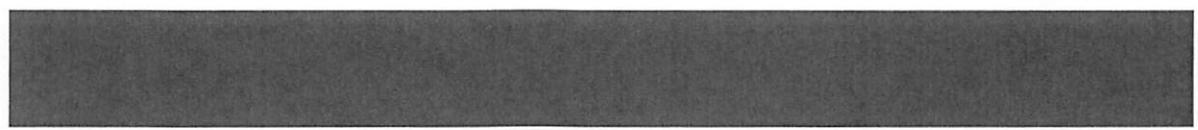
2 刑事共通問題研究

(1) 指導目標



(2) 實施內容





第3 その他の共通科目等

I 全科目共通

特別講義「国際人権法の理論と実践」

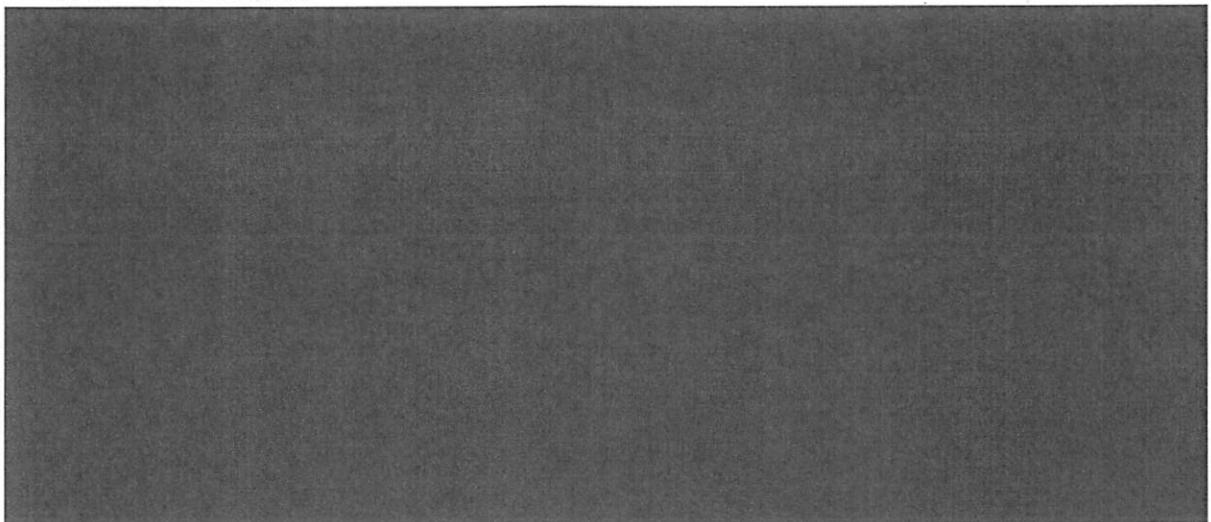
講 師 弁護士（第一東京弁護士会） 上 柳 敏 郎 氏

国際人権については、第54期まで、刑事弁護科目の講義の中で、主に自由権規約（B規約）のうち刑事手続関係規定を取り上げていたが、国際人権の重要性に鑑み、第55期以降は、全科目共通特別講義という形式に改めて国際人権全般にわたって講演を行ってきた。

第68期においても、同様の趣旨に基づき、講師が、国際人権が全科目共通講義となっている理由や、国際人権法の国内的・国際的実施等について、国際N G Oの活動に関するロールプレイ及び講演を行った。

II 弁護共通

演習「弁護士倫理」

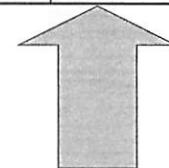


| 月 /日 | 曜 | 1限目 (9:50~11:40) | 2限目 (12:40~14:30) | 3限目 (14:45~16:35) | 月 /日 | 曜 | 1限目 (9:50~11:40) | 2限目 (12:40~14:30) | 3限目 (14:45~16:35) | |
|----------|---|---------------------|----------------------|----------------------|---------|-------------|---------------------|----------------------|----------------------|-----------|
| 31 | 月 | 全共特別講義 | | 刑共演習（争点整理） | 28 | 月 | 刑弁起案2講評 | | 刑裁起案2講評 | |
| 9 /1 | 火 | | 刑共演習（尋問） | 刑共問題研究 (情状・量刑) | 29 | 火 | 刑裁起案2講評 | | 検察起案2講評 | |
| 2 | 水 | 弁共演習 (弁護士倫理) | | 民共演習2（弁論準備手続期日） | 30 | 水 | 民共演習4 (判決・講評) | | 民弁起案2講評 | |
| 3 | 木 | | 民裁起案1講評 | | | | | | | |
| 4 | 金 | | 刑弁起案1講評 | 民共問題研究（和解） | | | | | | |
| 7 | 月 | | 民裁起案2（即日） | | | | | | | |
| 8 | 火 | 刑弁問題研究 (情状弁護活動) | | 検察起案1講評 | | | | | | |
| 9 | 水 | | 刑弁起案2（即日） | | | | | | | |
| 10 | 木 | 検察問題研究 (被害者保護) | | 民弁起案1講評 | | | | | | |
| 月 /日 | 曜 | 1限目 (9:50~11:40) | 2限目 (12:40~14:30) | 3限目 (14:45~16:35) | 11 | 金 | 検察起案2（即日） | | | |
| 8 /17 | 月 | 民裁講義 | 刑裁問題研究 | 14 | 月 | 民共演習3準備 | 刑裁起案1講評 | 11 /19 | 木 | 考試 |
| 18 | 火 | 民弁問題研究1 | | 15 | 火 | 民弁起案2（即日） | | 20 | 金 | 考試 |
| 19 | 水 | 刑弁起案1（即日） | | 16 | 水 | 刑裁起案2（即日） | | 23 | 月 | 勤労感謝の日 |
| 20 | 木 | 民弁演習1 (法律相談) | 民共演習1準備 | 17 | 木 | 民裁演習（争点整理） | 民弁演習2（通知書・和解条項） | 24 | 火 | 考試 |
| 21 | 金 | 民裁起案1（即日） | | 18 | 金 | 民裁演習（争点整理） | | 25 | 水 | 考試 |
| 24 | 月 | 検察起案1（即日） | | 21 | 月 | 敬老の日 | | 26 | 木 | 考試 |
| 25 | 火 | 刑裁起案1（即日） | | 22 | 火 | 国民の休日 | | | | 凡例 |
| 26 | 水 | 民共演習1（口頭弁論期日） | 民弁問題研究2 | 23 | 水 | 秋分の日 | | | | 民裁・・・民事裁判 |
| 27 | 木 | 民弁起案1（即日） | | 24 | 木 | 民裁起案2講評 | | | | 刑裁・・・刑事裁判 |
| 28 | 金 | 刑共演習（証拠開示・争点整理） | | 25 | 金 | 民共演習3（交互尋問） | | | | 民弁・・・民事弁護 |

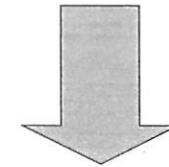
平成26年度（第68期）司法修習生

A班 集合修習日程予定表

（注） 本表は予定であって、確定日程ではない。
確定日程は、毎週最終登庁日に配布する。



選択型実務修習



| 民裁・・・民事裁判 | 民共・・・民事共通 |
|-------------|-----------|
| 刑裁・・・刑事裁判 | 刑共・・・刑事共通 |
| 民弁・・・民事弁護 | 全共・・・全科共通 |
| 刑弁・・・刑事弁護 | 弁共・・・弁護共通 |
| （即日）・・・即日起案 | |